

学習会

パートⅢ

「もっと知ろう手賀沼～といまく環境」

- 日時 2014年8月23日（土）10時～12時（開場9時30分）
■会場 松戸市六実市民センター 2階会議室
■定員 40名（定員になり次第締め切り） ■対象 中学生以上
■申込み 氏名、年齢（学年）、住所、電話番号を記載の上、以下までお願いします。
■問合せ先 松戸市 環境保全課 水質保全係 TEL：047-366-7337 FAX：047-366-1325

10：00 開会 手賀沼流域フォーラム実行委員会の報告
手賀沼流域フォーラム実行委員会松戸（中岡丈恵）

10：15 基調講演

「私たちは沼水の気持ちを実際に知っているだろうか」

手賀沼をとりまく流域の特徴と陸域から流入する汚れによって沼の水はどのように変化してきたのか、また、昔のような水を取り戻すことができるのか、参加者の皆さんと共に簡単な実験を通して考えてみたい。

講師 瀧 和夫 氏 千葉県環境学習アドバイザー講師
工学博士/千葉工業大学名誉教授 研究分野/水環境工学
研究テーマ/湖沼・海域等の滞留水域の特徴、富栄養化湖沼の水質浄化

11：00 松戸市からの報告・流域浄化対策と実施状況（松戸市環境保全課）

11：20 質疑応答と交流（12：00 閉会）

今の手賀沼は洗剤の大きな泡が立つ水質汚染でアオコがカビのように固まって（昭和40年代から）ワースト1が27年間継続していた時よりはとてもきれいになりました。それは長年にわたり国、県、市町村が多くの資金を投入して流域下水道の整備や河川浄化対策として様々な活動を繰り返してきたからです。また何よりも流域に住む人々が関心を持ち、生活を見直した事も大きな成果に繋がり、さらに霞ヶ浦を控える利根川の水を手賀川に取り入れ、沼の外側を經由して柏市まで太い管が長旅をする北千葉導水事業も大きな役割を果たしました。手賀沼に利根川の水を入れて澱んだ沼の水を動かす、一方では大量に運ばれた水をここから大堀川を通り江戸川まで運ぶ大きな事業の北千葉導水ビジターセンターは2000年に稼働開始しました。松戸市の大半が流している千葉県側の江戸川流域は鎌ヶ谷、野田、流山、市川、浦安市と対岸の埼玉県内と東京都内から排水しています。江戸川に流した排水は戻り水となり千葉県の水道水として取水している矢切りの浄水場や寅さんで有名な金町浄水場で取水される源水となる重要な川です。

しかしきれいになったことで安心していただけなのか、手賀沼は残念ですが24年度はワースト2に戻りました。近年渡り鳥の種類の変化や数も激減、沼の流域の雑木林や畑が大きな建造物となり自然の循環が損なわれ、道路からの排水、家庭からの単独浄化槽から流域下水道への工事でも地域差が大きく、さらに新たなセシウム被害などもありました。このように様々な周辺の変化で汚染が進む沼の気持ちを知るとはできませんが調べて学ぶことができます。長年手賀沼など湖沼水質の専門家として活動をしている瀧先生が実験を通してお話をさせていただきます！！土曜日・午前中の学習会ですが、お誘い合わせでの参加をお待ちしています。